【呼びかけ文】

　被爆・敗戦80年を迎えるにあたり、戦争・空襲・原爆の直接的な体験を語る人がいなくなる時代の中で、日本政府は急ピッチで自衛隊・日米安保の大軍拡を行い「台湾海峡有事」「朝鮮半島有事」を口実に対中国軍事包囲網を形成しようとしています。
　なぜ、過ちをくり返すのでしょうか？反省せず、責任をとらず、責任を追及しないからです。近代日本のアジア侵略の歴史を不問にして、最高軍事指導者＝天皇裕仁の犯罪と責任を免罪にして、米国仕掛けの象徴天皇制のあり方に疑問を持たないようでは、「平和と民主主義」は創れず、再び、戦争への道を止められないと考えます。
　広島・長崎の原爆ジェノサイドの背景には、近代日本のアジア侵略と植民地支配の歴史があります。被爆当時の広島・長崎にも朝鮮半島から強制的に連れてこられ、強制労働を強いられていた朝鮮人も被爆しています。そして、朝鮮半島に帰った被爆者たちは、援護の対象外とされてきました。「被爆者はどこにいても被爆者」と訴えた郭貴勲さんの裁判や三菱元徴用工などの裁判の判決により、当時の厚生省が出した４０２号通達によって援護の対象外にされたことの違法性が確認されました。そして、在韓被爆者をはじめとする在外被爆者は、現時点では居住国から被爆者健康手帳の交付申請をすれば、受けることができるようになりました。けれども、朝鮮民主主義人民共和国に帰った被爆者たちは、今も援護法による被爆者に対する援護を受けることができずにいます。
　私たちは、1977年から2024年まで、紆余曲折の中で、原水禁運動を左から支えることを目標に毎年集会を開催してきました。

　今年は、以下の４つのテーマを検討しています。

１　在朝被爆者の支援をどのようにすすめるのか？
２　なぜ、「広島・長崎原爆ジェノサイド」は起こったのか？
　　その一因として「国体護持」のために終戦工作に失敗した、「天皇の招爆責任」（岩松繁俊）を考えること。
３　核兵器廃絶のためには原発・原子力産業全体を問題にして、反原子力運動の中で位置づける運動論を考えること。
４　第２次大戦後も世界各地の武力紛争で無差別空爆大量殺戮を犯し続けている米国の責任を徹底的に追求し、早急にその重大な犯罪行為を停止させるために、重慶爆撃を日本が始めたことを認識した上で、ヒロシマからどのような運動を展開すべきなのかを考えること。

８月５日の集会に向けて、５月１０日に集会を開催します。

15:30　開会
15:35　講演１　田中利幸さん　講演録画上映（60分）
「重慶爆撃、広島・長崎原爆ジェノサイドから
ガザ・ジェノサイドまで」
16:40　講演２　金鎮湖さん　講演（80分）
「朝鮮半島出身の原爆被害者問題について」
18:00　質疑応答
18:30　閉会